

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	109人	算数	109人	理科	109人
第5学年	国語	90人	算数	90人	理科	90人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

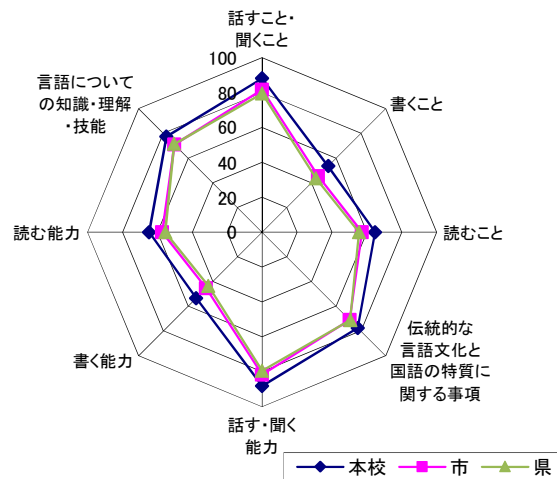
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.1	81.6	79.4
	書くこと	53.5	45.4	43.6
	読むこと	64.7	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.5	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	88.1	81.6	79.4
	書く能力	53.5	45.4	43.6
	読む能力	64.7	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	77.5	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

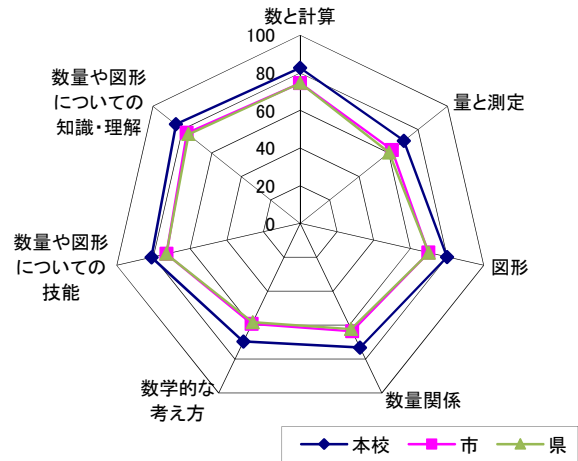
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は、市の平均を6.5ポイント、県の平均を8.7ポイント上回っている。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し、発言を整理する」の設問では、正答率が県と市の平均を上回っているものの、個人差が見られる。	・日頃の学習にペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べる機会を増やすとともに、話し合いでの役割について再度意識させていきたい。 ・大切なことを落とさず聞くために、話を聞く時のポイントや姿勢など、気を付けるべきことについて繰り返し指導を行っていききたい。
書くこと	○本校の正答率は、市の平均を8.1ポイント、県の平均を9.9ポイント上回っている。 ●「メモを基に報告レポートに適切な内容を書き入れる」や「メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く」の設問では、正答率が県と市を上回っているものの、個人差が見られる。	・学習の中で、自分の意見をノートに書く活動を多く取り入れたりすることで、書くことに対する抵抗感を減らしていきたい。 ・個人やグループによる新聞作りや、行事に関する感想文など、目的や条件に合わせた文章を書く機会を増やし、必要な事柄を抜かさずに、順序立てて書けるよう指導していきたい。
読むこと	○本校の正答率は、市の平均を7.5ポイント、県の平均を9.2ポイント上回っている。 ●「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」や「叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読む」の設問では、正答率が県や市の平均を超えているものの、個人差が見られる。	・読書をする際に、好きなジャンルのものだけでなく、様々な本に親しむことができるよう声かけをしていきたい。そのなかでも、物語を読むことに興味を持ち、会話文や叙述も意識しながらじっくり読めるような場を増やしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の正答率は、市の平均を6.1ポイント、県の平均を6.4ポイント上回っている。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方の設問では、正答率が市の平均を上回っているものの、県の平均を0.7ポイント下回っている。	・ローマ字の書き方や、国語辞典の使い方など、触れる機会が少ないものは、他教科との関連を図りながら、復讐できるように支援をしていきたい。 ・日々の学習の中でも、既習漢字はきちんと使うよう指導することで、使える知識としての定着を図りたい。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.6	74.5	74.6
	量と測定	70.4	62.4	60.4
	図形	80.0	69.9	70.1
	数量関係	73.2	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	69.6	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	81.1	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	84.5	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

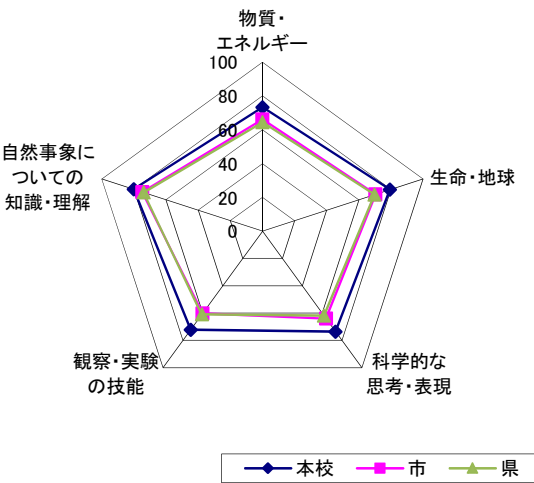
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の正答率は、市の平均を8.1ポイント、県の平均を8.0ポイント上回っている。 ●「計算の順序に合うように、()を書き入れる」や「3位数－3位数(繰り下がりあり)」、「余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる」の設問では、正答率が県や市を上回っているものの、個人差が見られる。	・既習内容はほぼ身につけていると考えられるが、繰り下がりのある引き算や、あまりのあるわり算の定着が十分でない児童がいるので、今後も繰り返し復習させ、定着を図りたい。
量と測定	○本校の正答率は、市の平均を8.0ポイント、県の平均を10.0ポイント上回っている。 ●「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める」設問では、正答率が県や市を上回っているものの、個人差が見られる。	・日常生活の具体的な場面における量感と、学習で習い覚える知識が結びつくような、知識を生活に生かすことができる場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていきたい。
図形	○本校の正答率は、市の平均を10.1ポイント、県の平均を9.9ポイント上回っている。 ●「箱に入った同じボールの大きさの半径の長さを選ぶ」や「与えられた1辺の続きを書いて正三角形を完成させる」の設問では、正答率が県や市を上回っているものの、個人差が見られる。	・具体物が準備できるものは、実際に使用して視覚的にもとらえられるようにする。 ・4年生で学習する垂直や平行の指導の際、正三角形の定義を振り返ったり、作図したりして、学習内容を確認、習熟を図りたい。
数量関係	○本校の正答率は、市の平均を9.6ポイント、県の平均を10.9ポイント上回っている。 ●「棒の高さは同じでも表す人数は異なることを説明する」の設問では、正答率が県や市を上回っているものの、個人差が見られる。	・算数だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る学習を取り入れていきたい。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを伝え合うことで、多面的な考え方を知る機会を設定していきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.3	66.1	64.4
	生命・地球	79.4	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	73.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	72.2	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	80.1	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○本校の正答率は、市の平均を7.2ポイント、県の平均を8.9ポイント上回っている。 ●「1つの豆電球と乾電池を使い、明かりがつく回路を選ぶ」の設問では、正答率が県の平均より7.2ポイント、市の平均より6.8ポイント下回っている。	・学習内容において、今後、実験や体験的な活動を増やすことで、予想する・結果をまとめる・考察するというサイクルを定着させ、さらに学習活動への理解を深めさせたい。 ・学習内容が定着していない部分に関して、今後、練習問題等を活用し内容の定着を図りたい。
生命・地球	○本校の正答率は、市の平均を9.0ポイント、県の平均を9.6ポイント上回っている。 ●「温度計の適切な操作方法が分かる」の設問では、正答率が県の平均より6.1ポイント、市の平均より3.9ポイント下回っている。	・観測や測定で使用する器具の使い方については、丁寧に、継続的に指導し、誰もが実際にやってみる経験を通して、正しい知識を身につけさせていきたい。 ・今後も日常の自然現象を積極的に話題にしたり、植物や動物の飼育を推奨したりすることで、身の回りの自然に関する関心の高さを持続させていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と学習について話をしている」という家族とのかかわりに関する質問では、肯定的回答率が県や市の平均を大きく上回っている。家族間でのコミュニケーションが良く取れている様子が見える。

○「自分の良さを人に生かしたい」「自分が持っている能力を十分に発揮したい」「毎日の生活が充実していると感じている」など、自己肯定感が高く、社会的実践力もついている様子が見える。

○「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話しあってクラスの決まりなどを決めていこうと思う」などの学級の様子を問う質問では、肯定的回答率が県や市の平均より大きく上回っている。今後も、児童一人一人の良さを認め、励ましながら学びへの意欲につなげていく。

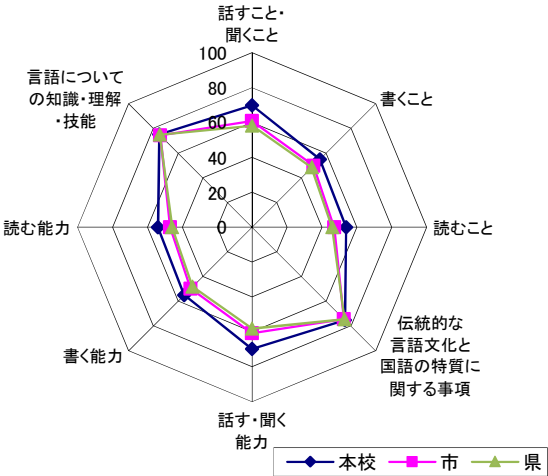
●「授業で自分の考えを文字にまとめて書くことは難しい」という設問の肯定的回答率が50.5ポイントであり、県や市の平均から大きく下回っている。自分の考えをまとめ、書いて表現することを苦手と感じている児童が多いことが読み取れる。今後も、学習の中のいろいろな機会を通して、自分の考えを書く活動を多く取り入れていき、慣れることで意識低下を図っていきたい。

●「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」での肯定的回答率が県や市の平均より下回っている。学校生活の中で児童に声掛けをし、達成できる喜びがより多く感じられるよう支援していきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.8	60.8	58.1
	書くこと	55.0	49.8	48.3
	読むこと	53.9	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	69.8	60.8	58.1
	書く能力	55.0	49.8	48.3
	読む能力	53.9	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	75.2	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

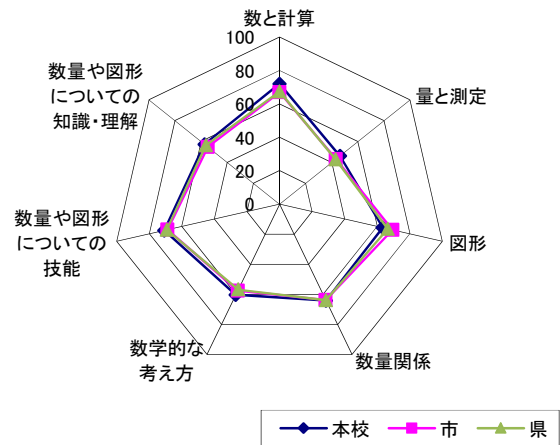
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は、市の平均を9.0ポイント、県の平均を11.7ポイント上回っている。 ●話し合いの中で意見の共通点を考えて書く設問では、市・県の平均は上回っているものの、無回答が4.7ポイントとなっており、課題が残る。	・日頃の学習にペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べたり、相手の意見の大切なことを落とさず聞いたりすることを、繰り返し指導を行っていきたい。
書くこと	○本校の正答率は、市の平均を5.2ポイント、県の平均を6.7ポイント上回っている。 ○掲示物の内容に合う資料を選ぶ設問では、県の正答率を12.3ポイント上回っている。 ●資料(表)を基に説明する設問では、市の平均を2.8ポイント、県の平均を1.1ポイント下回っている。	・学習の中で自分の意見を書いたり、個人やグループによる新聞作りや、行事に関する感想文など、目的や条件に合わせた文章を書く機会を増やし、必要な事項を抜かさずに、順序立てて書けるよう指導していききたい。
読むこと	○本校の正答率は、市の平均を6.9ポイント、県の平均を8.0ポイント上回っている。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する設問では、県平均を11.0ポイント上回っている。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む設問では、市の平均を1.3ポイント、県の平均を1.1ポイント下回っている。	・文学的文章を読む学習では、本文を丁寧に読むことの大切さを伝え続けるとともに、音読をする機会を設定していききたい。 ・学校図書館の利用を更に促すとともに、好きなジャンルのものだけでなく、様々な本に親しむことができるよう声掛けをしていききたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の正答率は、市の平均を0.8ポイント、県の平均を0.4ポイント上回っている。 ●漢字の構成(部首・たれ)の正答率が、市の平均を10.8ポイント、県の平均を21.7ポイント下回っている。 ●慣用句の使い方の正答率が、市の平均は上回っているものの、県の平均を1.8ポイント下回っている。	・新出漢字の定着を図るための機会を確実に設ける。また読みや筆順だけでなく、部首についてももしっかり押さえていく。 ・日常生活の中で、慣用句に触れる場を意識して設けていききたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.0	66.9	67.4
	量と測定	46.3	43.2	43.0
	図形	63.4	69.4	66.5
	数量関係	64.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	60.3	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	70.7	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	57.4	54.9	56.4



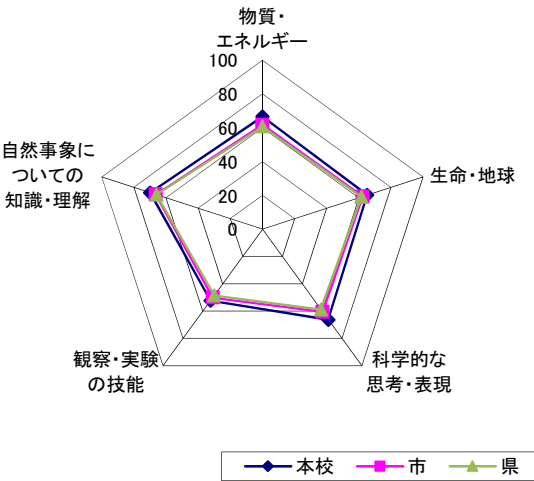
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の正答率は、市の平均を5.1ポイント、県の平均を4.6ポイント上回っている。 ○1000円以内で全部買えるか見積もる方法を選ぶ設問では、県の平均を12.6ポイント上回った。 ●小数(小数第2位)-小数(小数第1位)の計算の設問では、市の平均を2.1ポイント、県の平均を2.9ポイント下回った。	・学習した内容はほぼ身に付いていると思われるが、小数の計算や、3位数÷2位数(商に空位、余りあり)の問題は、習熟に個人差が見られるので、今後も繰り返し復習させ、定着を図りたい。
量と測定	○本校の正答率は、市の平均を3.1ポイント、県の平均を3.3ポイント上回っている。 ●はがきのおよその面積を選ぶ設問では、市の平均を4.7ポイント、県の平均を5.5ポイント下回っている。	・日常生活の具体的場面における量感と、学習で習い覚える知識が結びつくような、また、知識を生活に生かすことができる場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていきたい。
図形	●本校の正答率は、市の平均を6.0ポイント、県の平均を3.1ポイント下回っている。 ○平面上にあるものの位置を表す設問では、市の平均を2.2ポイント、県の平均を7.4ポイント上回っている。 ●与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成する設問では、市の平均を14.3ポイント、県の平均を13.8ポイント下回っている。	・平行四辺形の定義を再確認するとともに、いろいろな図形の作図の仕方をもう一度確認し、習熟を図りたい。
数量関係	○本校の正答率は、市の平均を0.4ポイント、県の平均を0.2ポイント上回っている。 ●数量関係について、短答式で答える設問の6題中5題は、市や県の平均をわずかに下回っている。	・理科や社会科等、算数の時間以外にも表やグラフを飲み取る学習を取り入れていきたい。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを発表したり、聞いたりすることで、多面的な考え方を知る機会を設定していきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.6	61.7	60.7
	生命・地球	65.2	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	66.3	60.6	58.9
	観察・実験の技能	52.3	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	69.9	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の正答率は、市の平均を4.9ポイント、県の平均を5.9ポイント上回っている。 ○閉じ込めた空気と水を圧すときの体積の変化を推測する設問や、金属が熱した部分から順に温まることが分かるかという設問の正答率が、県や市の平均より10ポイント以上上回っている。 ●空気の温度による体積変化と手ごたえの反応や、結果を見通して実験を構想すること、沸騰の状態に関する設問の正答率が、県や市の平均より下回っている。	・各自が実験の結果から得られる学習内容を正しく理解できるように、実験を行った際には、結果や考察をノートに書き込む活動を取り入れ、全員で確認しながら練り上げていく活動をしていきたい。 ・自主学習等の通して、普段の生活の中で様々な事象に対して、興味・関心を持てるように今後も継続して支援していきたい。また、抱いた疑問については、自主的に追求していけるよう支援をし、身の回りの事象について考える姿勢が身につくようにしたい。
生命・地球	○本校の正答率は、市の平均を2.8ポイント、県の平均を3.6ポイント上回っている。 ○天気に関する設問では、すべての設問で県と市の平均を上回っている。 ●骨と骨のつなぎ目(関節)を問う設問では、県の平均を8.6ポイント、市の平均を7.7ポイント下回っている。 ●月と星に関する設問では、県と市の平均を下回っている。	・授業で得た知識を、授業の中で完結させるのではなく、自主学習を奨励することで、身の回りの事象や抱いた質問と関連付けて考えるよう意識し、学習内容の定着を図っていきたい。 ・自然現象の実感を伴う体験的理解のさらなる充実が図れるよう、季節や時間に合わせた子供への支援をしていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は学習のことについてほめてくれる」「自分はクラスの役に立っていると思う」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っってクラスの決まりなどを決めていると思う」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」など、学校生活に満足感を持って活動できているかを問う設問において、肯定的回答率が県や市の平均より大幅に上回っている。児童の自己有用感ともつながり、安心感の中で自ら成長しようという姿勢を育むことにつながっていると推察できる。今後も児童のよりよく変容しようとする意欲を支えられるような支援をしていきたい。

○「家の人と将来のことについては話すことがある」の肯定的回答率は、県の平均を10ポイント、市の平均を6.5ポイント上回っている。また、「自分は家族の大切な一員だと思う」の設問では、96.5ポイントとなっており、これは県の平均を5.3ポイント、市の平均を3.5ポイント上回っている。家庭での児童を中心とした豊かなコミュニケーションが児童の意欲を支えていることが推察される。学年だより等の各種便りにて学校での児童の姿を発信し、家庭でのコミュニケーションに促進に努めたい。

●「家でのかままりや約束を守っている」の肯定的回答率は、県を7.6ポイント、市を8.3ポイント下回っている。規範意識についての課題が見受けられるので、家庭への啓発に努めるとともに、児童にも約束を守ることにについて、学校生活の中で再度確認していきたい。

●「できるだけ自分ひとりの力で問題を解決しようとしている」での肯定的回答率は、県を5.5ポイント、市を6.6ポイント下回っている。学び合いに十分に取り組めていて、教師にも質問しやすいという傾向がある中、自分で最後まで解くことに苦手意識をもつ児童が見受けられるので、どうすれば取り組めるようになるかを個別に声をかけ、児童の中で達成感を得ることができるよう支援していきたい。

●「平日のテレビ・DVD鑑賞時間4時間以上」の設問や「平日のゲーム時間4時間以上」では、本校は県・市の平均より多い。テレビやゲームの時間にかかわる約束事が守られにくくなっているのが一つの要因かと推測される。家庭への啓発に努めるとともに、児童にも約束を守ることにについて、学校生活の中で再度確認していきたい。

宇都宮市立今泉小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習に継続性を生み出すことで学習内容の獲得、深化、統合を促し、確かな力を育む。	・授業における【目標(めあて・ねらい)】の提示と書く活動を伴う【振り返り】の実施。 ・各自が設定した【目標(めあて・ねらい)】に従った自主学習への取り組みの支援。	「振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習のまとめを書いている」への肯定的回答率と、「家で学校の予習をしている」など自主学習への意欲が高いととれる設問との相関性が読み取れる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数、国語に関しては、おおむね良好だったが、分野によって個人差が見られた。 ・理科では、単位の量感や自然現象の実感、を伴う体験的理解や実験結果の理解のさらなる充実が課題である。	・学習活動と取り組み方において、共通化と個別化を視点に学業指導に取り組む。	・授業で扱うノートに「まとめ」「ふりかえり」を記述することを意図的に行う。 ・テスト等を直して身に着ける学習やドリル学習を継続的に行うとともに、児童により個別化できるようにする。 ・具体的な操作を扱う教材や器具の活用について共通理解する。